

平成26年度

相模原市川尻財産区特別会計
歳入歳出決算審査意見書

相模原市監査委員

平成27年8月7日

相模原市川尻財産区管理者

相模原市長 加山 俊夫 殿

相模原市監査委員 八 木 智 明

同 坪 井 廣 行

同 米 山 定 克

同 小野沢 耕 一

平成26年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算の審査意見について（提出）

地方自治法(昭和22年法律第67号)第233条第2項の規定に基づき、審査に付された平成26年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算及び証書類その他政令で定める書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

以 上

平成26年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

目 次

I	審査の対象	-----	1
II	審査の期間	-----	1
III	審査の方法	-----	1
IV	審査の結果	-----	1
V	審査の意見	-----	1
VI	審査の内容	-----	2
1	決算の概要	-----	2
(1)	歳入	-----	2
(2)	歳出	-----	6
2	実質収支に関する調書	-----	8
3	財産に関する調書	-----	8

- (注)
- 1 文中に用いた金額及び面積は、単位未満は切り捨てた。
 - 2 比率は、原則小数点第2位を四捨五入した。このため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
 - 3 各表中の符号の用法は次のとおりである。
 - 「0.0」…… 該当数値はあるが単位未満のもの
 - 「100.0」…… 単位未満を四捨五入したもの
 - 「△」…… 収支不足額を示し、又は増減では減を示すもの
 - 「-」…… 算出不能、該当数値のないものなど

I 審査の対象

- (1) 川尻財産区特別会計歳入歳出決算
- (2) 川尻財産区特別会計歳入歳出決算事項別明細書
- (3) 川尻財産区特別会計実質収支に関する調書
- (4) 財産に関する調書

II 審査の期間

平成27年7月6日から平成27年8月5日まで

III 審査の方法

審査に当たっては、川尻財産区特別会計の歳入歳出決算書、同歳入歳出決算事項別明細書、同実質収支に関する調書及び財産に関する調書について、それぞれが関係法令に準拠して調製されているか、決算の計数に誤りはないか、予算は適正かつ効率的に執行されているかなどを主眼として、関係諸帳簿及び証拠書類との照合等通常実施すべき審査手続により実施した。

IV 審査の結果

審査に付された川尻財産区特別会計の歳入歳出決算書、同歳入歳出決算事項別明細書、同実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも法令に規定された様式により作成されており、記載金額等は歳入簿、歳出簿、証書類、財産台帳等と符合し、計数は正確であると認められた。

川尻財産区特別会計の決算内容及び予算の執行状況等については、おおむね適正であると認められた。

決算の概要等については、審査の内容に記述するとおりである。

V 審査の意見

相模原市基本構想では、基本目標の1つに「やすらぎと潤いがあふれる環境共生都市」を掲げているところである。

豊かな自然は、暮らしの中にやすらぎと潤いをもたらすものであり、財産区財産は、この一翼を担うものである。

こうしたことから、財産区においては公益的役割を踏まえつつ、財産区財政の健全な運営に引き続き努められるよう要望するものである。

VI 審査の内容

1 決算の概要

決算額は、歳入661万円、歳出587万円で、歳入歳出差引額は73万円となり、翌年度へ繰り越すべき財源はないので、実質収支額も同額である。

決算額を前年度と比較すると、歳入は6千円(0.1%)、歳出は4万円(0.8%)の減少である。

決 算 の 状 況

(単位：円、%)

区 分	26 年 度	25 年 度	増 減 額	増 減 率
予 算 現 額	8,500,000	8,495,000	5,000	0.1
歳 入 決 算 額 A	6,612,057	6,618,141	△ 6,084	△ 0.1
歳 出 決 算 額 B	5,878,672	5,925,181	△ 46,509	△ 0.8
形 式 収 支 額 (A-B) C	733,385	692,960	40,425	5.8
翌年度へ繰り越すべき財源 D	0	0	0	—
実 質 収 支 額 (C-D) E	733,385	692,960	40,425	5.8
前 年 度 実 質 収 支 額 F	692,960	572,335	120,625	21.1
単 年 度 収 支 額 (E-F)	40,425	120,625	△ 80,200	—

(1) 歳 入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
26	8,500,000	6,612,057	6,612,057	0	0	77.8	100
25	8,495,000	6,618,141	6,618,141	0	0	77.9	100
増減	5,000	△ 6,084	△ 6,084	0	0	△ 0.1	0
増減率	0.1	△ 0.1	△ 0.1	—	—	—	—

歳入における決算の状況は、予算現額850万円に対し、調定額661万円で、その全額が収入済となっている。

前年度と比較すると、予算現額では5千円(0.1%)の増加、調定額及び収入済額は6千円(0.1%)の減少となっている。

財源別対前年度比較

(単位：千円、%)

区 分	決 算 額		構 成 比 率	
	26年度	25年度	26年度	25年度
自 主 財 源	6,576	6,183	99.5	93.4
依 存 財 源	36	435	0.5	6.6
計	6,612	6,618	100	100

(注1) 本表は、地方財政状況調査の分類方法を準用した。

(注2) 単位未満は四捨五入している。

収入済額を財源別に分類し比較してみると、自主財源は99.5%で、依存財源が0.5%となっており、自主財源の割合は前年度と比較すると6.1ポイント上昇している。

第10款 県支出金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
26	521,000	36,000	36,000	0	0	6.9	100
25	773,000	435,000	435,000	0	0	56.3	100
増減	△ 252,000	△ 399,000	△ 399,000	0	0	△ 49.4	0

収入済額3万円を前年度と比較すると39万円(91.7%)の減少である。これは、地域林業形成促進事業補助金が減少したことによるものである。

収入済額

・ 自然保護奨励金

3万円

第15款 財産収入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
26	5,647,000	5,847,888	5,847,888	0	0	103.6	100
25	5,646,000	5,588,797	5,588,797	0	0	99.0	100
増減	1,000	259,091	259,091	0	0	4.6	0

収入済額584万円を前年度と比較すると25万円(4.6%)の増加である。これは主として、土地貸付収入が24万円減少した反面、生産物売払収入が48万円増加したことによるものである。

収入済額の主なもの

- ・ 土地貸付収入 314万円
- ・ 生産物売払収入 213万円

第20款 繰入金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
26	1,865,000	0	0	0	0	0	—
25	1,588,000	0	0	0	0	0	—
増減	277,000	0	0	0	0	0	—

第25款 繰越金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
26	466,000	692,960	692,960	0	0	148.7	100
25	487,000	572,335	572,335	0	0	117.5	100
増減	△ 21,000	120,625	120,625	0	0	31.2	0

収入済額69万円は前年度剰余金で、前年度と比較すると12万円(21.1%)の増加である。

第30款 諸収入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
26	1,000	35,209	35,209	0	0	3,520.9	100
25	1,000	22,009	22,009	0	0	2,200.9	100
増減	0	13,200	13,200	0	0	1,320.0	0

(2) 歳 出

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
26	8,500,000	5,878,672	0	2,621,328	69.2
25	8,495,000	5,925,181	0	2,569,819	69.7
増減	5,000	△ 46,509	0	51,509	△ 0.5
増減率	0.1	△ 0.8	—	2.0	—

歳出における決算の状況は、予算現額850万円に対し、支出済額587万円で、執行率は69.2%となっている。これらを前年度と比較すると、予算現額は5千円(0.1%)の増加、支出済額は4万円(0.8%)の減少であり、執行率は前年度と比較すると0.5ポイント低下している。

不用額262万円は、予算現額の30.8%(前年度30.3%)である。

第5款 議会費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
26	650,000	590,878	0	59,122	90.9
25	651,000	587,100	0	63,900	90.2
増減	△ 1,000	3,778	0	△ 4,778	0.7

支出済額59万円は、主として議員報酬費である。

第10款 総務費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
26	7,473,000	5,287,794	0	2,185,206	70.8
25	7,378,000	5,338,081	0	2,039,919	72.4
増減	95,000	△ 50,287	0	145,287	△ 1.6

支出済額528万円を前年度と比較すると5万円(0.9%)の減少である。これは主として、財産管理費が30万円及び本沢梅園管理費が5万円増加した反面、造林振興事業費が42万円減少したことによるものである。

支出済額の主なもの

- ・本沢梅園管理費 286万円
- ・造林振興事業費 122万円

不用額の主なもの

- ・財産管理費 85万円

第25款 予備費

(単位：円)

区分 年度	当 初 予 算 額	充 当 額	予 算 現 額	不 用 額
26	377,000	0	377,000	377,000
25	466,000	0	466,000	466,000
増減	△ 89,000	0	△ 89,000	△ 89,000

2 実質収支に関する調書

実質収支に関する調書に記載されている川尻財産区特別会計の計数は、次のとおりである。

実 質 収 支 額

(単位：千円)

会計区分	歳入歳出 差引額	翌年度へ繰り越すべき財源			実質収支額
		継続費 繰越額	明許費 繰越額	事故繰越 繰越額	
川尻財産区特別会計	733	0	0	0	733

3 財産に関する調書

公有財産及び基金の異動状況は、次のとおりである。

財 産 の 状 況

区 分		単位	前年度末現在高	本年度中増減高	本年度末現在高
公有財産	土地	m ²	766,496.68	0	766,496.68
	建物	m ²	52.00	0	52.00
	出資による権利	円	420,000	0	420,000
基金	資基金積立金 川尻財産区運営基金	円	272,279,249	575,400	272,854,649

(土地のうち山林の内訳)

区 分	面 積 (m ²)			立木の推定蓄積量 (m ³)		
	前年度末 現在高	本年度中 増減高	本年度末 現在高	前年度末 現在高	本年度中 増減高	本年度末 現在高
山 林	766,241.77	0	766,241.77	6,452.44	78.02	6,530.46

(1) 公有財産

ア 土地

土地及び建物の年度末現在高は766,496m²及び52m²で、前年度と同じである。

立木の推定蓄積量の年度末現在高は6,530m³で、前年度と比較すると78m³増加している。

イ 出資による権利

出資による権利の年度末現在高は、津久井郡森林組合出資金42万円で前年度と同じである。

(2) 基金

基金の年度末現在高は2億7,285万円で、前年度と比較すると57万円増加している。